

島根県立大学 オンデマンド 公開講座

講座 I 聴いて得する！ 大学教員の“ちょっとココだけ”の話

地域との協働による課題研究の方法 ～県内高校との連携の取組事例から～

講師 久保田 典男（島根県立大学 教授）

講座概要

学習指導要領の改訂により、2022年度より「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」に変わることを受け、各高校では地域との協働による探究活動に取り組んでいます。本講座は大学での教育・研究活動の紹介を踏まえ、県内高校向けに実施した講演の内容をベースに、県内の若者が探究活動を行う方法を解説します。

地域に根差した英語教育 ～地域の宝を世界に発信する役割～

講師 江口 真理子（島根県立大学 教授）

講座概要

大学の英語教育の実践における地域連携の重要性はよく認知されていません。本講座では、地域社会に根ざした英語教育実践は、発信型英語教育の推進、日本人英語の許容、地域社会への貢献、英語学習効果の向上という可能性を有し、英語を地域社会の発展に貢献するための道具とするという英語教育の新しい発想を提案します。

エクセルによる統計分析の基本方法

講師 張 忠任（島根県立大学 教授）

講座概要

本講座では、統計学の基本的な方法を理解し、記述統計学から標本データを用いた母集団の特徴を推測する推測統計学の基礎を築き、コンピューター・統計処理の基本方法について、エクセルの利用を中心に話します。具体的な内容は、平均値、標準偏差、推定、検定、相関係数および回帰などについて、実用的な計算手順を紹介いたします。

講座 II 地域づくり新時代 ～ 歴史編・環境編・人編・表現編 ～

「地域づくりコース」がめざすもの

講師 井上 厚史（島根県立大学 教授）

講座概要

2021年4月にスタートした新学部のうち、地域政策学部「地域づくりコース」の概要についてお話しします。「地域づくりコース」は、過疎高齢化が猛スピードで進行する島根県において、真剣に「地域づくり」に取り組める学生を育てることを目標に作ったコースです。新時代の「地域づくり」を見ずえて、教授陣を4つの班に分けました。地域の歴史文化を掘り下げる「歴史班」、森林資源や海洋資源の有効活用を考える「環境班」、NPOや地域おこし協力隊などの新たな人材づくりを考える「人班」、そして島根県に足りない表現力を磨く「表現班」の4つです。個性的で優秀な教授陣がそろった「地域づくりコース」の概要をご説明します。

～歴史編～

「歴史の見方」

講師 播本 崇史（島根県立大学 准教授）

講座概要

歴史はいわば、過去の出来事に関する情報の集積です。しかし、歴史的事象やその発生年といった「情報」をただ暗記するだけでは、歴史は見えてきません。ここでは歴史の見方として、注意を要する基本的な事柄についてお話しいたします。それは「地域づくり」においても決して無縁なことではありません。

～環境編～

・遺跡保全と社会的行動・

講師 伊藤 豊（島根県立大学 准教授）

講座概要

本講座では、カンボジアの代表的世界遺産であるアンコール遺跡群に位置するバイヨン寺院を対象に行った、観光客参加型の遺跡保存システムの提案に関する研究を紹介します。次に、そのアイデアに通じる考え方を地域課題に応用した事例として、バイオマス資源の炭化を通じた地域課題の解消が可能な仕組みの紹介を行います。

・エネルギーと地域循環共生圏・

講師 豊田 知世（島根県立大学 准教授）

講座概要

本講座では、地域資源を使った再生可能エネルギーを活用することで、自然環境や地域経済、地域社会へどのような影響があるのか、地域循環共生圏の視点から紹介を試みます。また、大学生が地域で具体的にどのような活動をしているのか、ゼミのプロジェクト内容について紹介します。

～人編～

ライフスタイルの多様化と学びの意義

講師 宮下 聖史（島根県立大学 准教授）

講座概要

経済や人口の右肩上がりの時代が終わり、現代は「生き方の正解のない時代」と言うことができます。この講座では、「ポスト成長期のライフスタイル」について具体例を通じて示していくことに加え、こうした時代の学びの意義についても論じていきたいと考えています。

島根で活躍する地域おこし協力隊

講師 西嶋 一泰（島根県立大学 講師）

講座概要

総務省が推進する地域おこし協力隊。全国で5000人、島根では200人の協力隊が活動しています。都会から田舎へ来て、最長3年間の限られた任期のなか、どのような「地域おこし」を実践しているのか。大田市の協力隊OBで、県内の協力隊の研修も行ってきた経験から、現在の地域おこし協力隊の状況や可能性を論じます。

～表現編～

ローカルジャーナリストという生き方

講師 田中 輝美（島根県立大学 准教授）

講座概要

暮らしているからこそ、伝えられることがある。地域に暮らし、その地域を記録・発信するのがローカルジャーナリストという生き方です。島根で生まれ育った講師が、この肩書を自らつくった背景や実際の活動内容に加えて、長年島根を観察してきた経験を踏まえて、島根の現代的価値や魅力を解説します。

地域にブランドは必要なのか？

講師 平井 俊旭（島根県立大学 講師）

講座概要

ブランド品というと、高級品あるいは贅沢品というイメージを持たれる方は多いと思います。しかし高級品や贅沢品だからブランド品だという事では無く、顧客と信頼関係を築けているものやサービスだからブランドなのだと考えてみてください。本当の価値をイメージとして伝えるために知恵を絞って考える事がブランド作りなのだとをお伝え出来ればと思います。